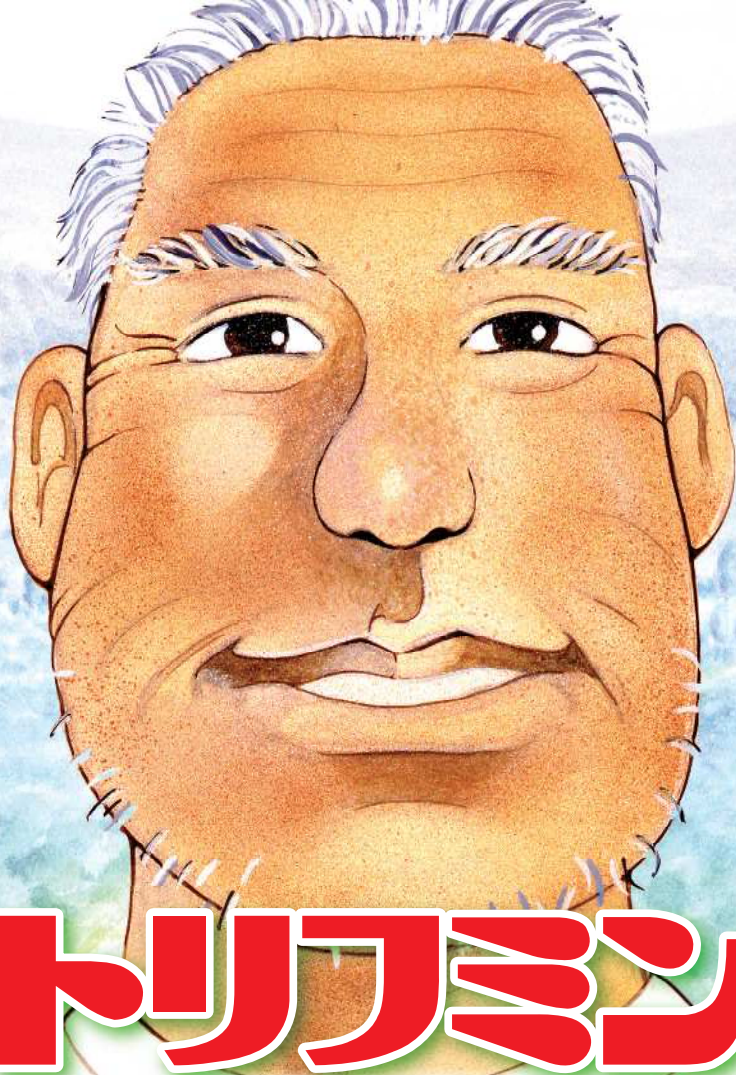


畑の顔

これが



病害防除
の顔役

トリフミン[®] 水和剤

特長

- 多くの病害に効果があり、防除の困難な病害の基幹防除剤として適します。
- 予防効果と治療効果に優れ、病斑の拡大や孢子形成を阻止します。
- 浸達性に優れるので、散布後の降雨も効果にほとんど影響がありません。

■適用病害と使用方法

*印は、収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前(摘採前)の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数(散布回数)の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	総使用回数*		使用方法	
					本剤	トリフルミゾール		
りんご	黒星病、うどんこ病 赤星病、斑点落葉病	2,000~3,000	200~700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布	
	うどんこ病							
黒点病								
ぶどう	うどんこ病	2,000~3,000		7日	前日	2回		2回
	黒とう病、褐斑病	2,000						
もも	灰星病、黒星病	1,000~1,500		前日	2回	2回		
	うどんこ病	1,500~2,000						
すもも	灰星病	1,000		14日	3回	3回		
	黒星病	1,000~1,500						
マルメロ かりん	赤星病	2,000		前日	3回	3回		
	うどんこ病							
あけび(果実) マンゴー	うどんこ病	2,000	3日	3回	3回			
	うどんこ病							
いちじく	株枯病	500	1~10ℓ/株	前日	4回	7回 (散布は3回) 灌注は4回)	灌注	
	さび病、そうか病	2,000	200~700ℓ/10a					
とうもろこし(子実) 未成熟とうもろこし	すす紋病	2,000~4,000	-	30日	3回	3回		
にんじん	うどんこ病	3,000		7日				
いちご	じゃのめ病、輪斑病	3,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病							
ピーマン さやえんどう 実えんどう	うどんこ病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
	つる枯病、陥没病	3,000						
メロン	つる枯病	3,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病	3,000~5,000						
すいか	うどんこ病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
	つる枯病	3,000						
きゅうり	うどんこ病、黒星病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
	つる枯病	3,000						
にがうり	うどんこ病	3,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病	3,000						
うり類(漬物用)	つる枯病、炭疽病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病	3,000~5,000						
かぼちゃ	うどんこ病	種子重量の0.3%	-	は種前	1回	5回 (種子粉衣は1回)	種子粉衣(湿粉衣)	
	フザリウム立枯病							
トマト	葉かび病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
ミニトマト	うどんこ病、すすかび病	3,000						
なす	すすかび病	3,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病	3,000~5,000						
とうがらし類	うどんこ病	3,000~5,000	-	前日	5回	5回	散布	
	うどんこ病	4,000~5,000						

適用病害と使用方法

*印は、収獲物への残留回避のため、その日まで使用できる収獲前（摘採前）の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期*	総使用回数*		使用方法
					本剤	トリフルミゾール	
ねぎ	萎凋病	50	—	定植直前	1回	1回	5~30分間苗根部浸漬
		100	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ)当り0.5ℓ	定植前			苗床灌注
		200	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ)当り1ℓ	—			—
たまねぎ	乾腐病	50	—	定植直前	1回	1回	5分間苗根部浸漬
		50~100	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ)当り0.5ℓ	定植前			苗床灌注
こんにゃく	黒球病	50	—	植付前	2回	2回	種いも1m ² 当り150mℓ
らっきょう							種いも1m ² 当り150mℓ
かんしょ	基腐病	2,000~3,000	100~300ℓ/10a	前日	2回	2回	散布
	つる割病	16	0.8~1.6ℓ/10a	—			3回 植付前の処理は1回、植付後は2回
アスパラガス	立枯病	500	—	植付前	1回	1回	17時間苗基部浸漬
食用ゆり	鱗茎さび症	1,000	3ℓ/m ²	7日			灌注
パセリ	うどんこ病	50	—	植付前	2回	2回	種球瞬間浸漬
セルリー	斑点病	8,000	—	30日			—
葉しょうが	白星病	2,000	—	前日	2回	2回	散布
しょうが	褐色しみ病、白星病	1,000	—	7日	3回	3回	
ごぼう	うどんこ病	—	—	前日	5回	5回	散布
オクラ	黒斑病、うどんこ病、葉すす病	5,000	100~300ℓ/10a	前日	3回	3回	
しそ	さび病	2,000	—	収穫開始10日前まで(収穫開始後は使用しない)			—
にら	うどんこ病	3,000	—	14日	3回	3回	—
ふき(ふきのとう)	うどんこ病、さび病	2,000	—	45日			
にんにく	葉枯病	30	—	前日	1回	1回	10分間種子浸漬
稲	ばか苗病、もち病、ごま葉枯病	300	—	—			1回
	乾燥もみ重量の0.5%	—	—	—	種子粉衣(湿粉衣)		
	7.5~15	乾燥もみ1kg当り30mℓ	—	—	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)		
麦類	斑葉病、裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、網斑病	種子重量の0.5%	—	は種前	3回(種子粉衣は1回)	3回	種子粉衣
	うどんこ病、赤かび病	1,000~2,000	60~150ℓ/10a	14日			—
茶	炭疽病	1,500~2,000	200~400ℓ/10a	(摘採)14日	3回	3回	散布
	もち病	1,000~1,500	25~180ℓ/10a	10日			
たばこ	うどんこ病	5,000	25~180ℓ/10a	10日	2回	2回	散布
ばら	うどんこ病	3,000~5,000	—	—			
きく	白さび病	3,000	100~300ℓ/10a	発病初期	5回	5回	—
花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)	うどんこ病	1,000	—	—			
樹木類(しきみを除く)	うどんこ病	3,000	200~700ℓ/10a	—	1回	1回	無人航空機による散布
しきみ	球根腐敗病	60	10~30ℓ/10a	—			—
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2%	—	植付前	1回	1回	—

効果・薬害等の注意

- なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
- なしでは、MEP剤との混用により薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は次のことに注意してください。
 - ①1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
 - ②根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制が生じることがあるので、使用しないください。
- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適量な容器内で球根に均一に粉衣してから植付してください。
- スイピーに使用する場合は、薬害が生じるおそれがあるので、開花期以降は使用をさけてください。
- カラー及び花すに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用後14日間は入水しないでください。

- 水稲の種子消毒に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ①種子消毒は浸種前に行ってください
 - ②浸漬処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1:1以上とし、種もみはサラシ網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - ③粉衣処理の場合は、付着をよくするため、湿粉衣としてください。
 - ④吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥してください。
 - ⑤処理した種もみは、風乾燥、水洗いせずに浸種してください。
 - ⑥消毒後の浸種は水槽で行い水の交換は原則として始めの2日間は行わないでください。その後換水する場合は静かに行ってください。
 - ⑦粉衣処理、高濃度浸漬(30倍)及び吹き付け処理をした種子を播種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぐしてください。
 - ⑧軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 畜に対して影響があるので、周辺の畜業にはかからないようにしてください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ①散布は散布機種に準じて実施してください。
 - ②散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。

- ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- ④散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
- ⑤散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- 使用方法などを厳守してください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
- 本剤が眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。(刺激性)
- 皮膚に付着しないように注意してください。付着した時は直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。(弱い刺激性)

- 使用の際は、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。また、薬剤を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路・公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないように注意を払ってください。

水産動物への影響：水産動物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない、冷涼・乾燥した所。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

